

令和7年度全国学力・学習状況調査に関する分析

【国語に関する調査の分析・改善方法について】

・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のすべての項目において、全国平均を上回っており、国語学習への意欲を感じられる結果となった。また、「記述式」「短答式」「選択式」全ての問題形式において、全国平均を上回っている。基本的な読解力は概ね身についている一方で、記述問題の筋道立てて説明する力に課題が残る。構成を意識した短文記述の練習を継続し、接続語や指示語の使い方を指導し、論理的に表現する力を高めていきたい。また、語彙の理解を深め、言葉を適切に使う力を身につけられるようにする。文章中の語の意味を理解させ、類義語や使い分けを意識した指導を行うとともに、単元ごとに短作文を書く機会を設ける。

【数学に関する調査の分析・改善方法について】

・「図形」「関数」「データの活用」の項目において、全国平均を上回っている。一方、「数と式」の項目における正答率が低かった。基本的な知識・技能の習得に課題があると思われる。特に素数や倍数など数の性質に関わる問題の理解に課題があった。図形領域では、表・式・グラフの相互関係をよく理解することができていた。また、図形領域では図形の性質を見だし、順序立てて証明することができていた。「数と式」の単元を扱う際に、素数や倍数などの数の性質に関わる定義や性質等を復習しながら、学習を進めていく。また、ペアやグループで解答の流れを口頭で説明する活動を行う。

【理科に関する調査の分析・改善方法について】

・「エネルギーを柱とする領域」「地球を柱とする領域」の項目において、全国平均を上回っている。一方、「粒子を柱とする領域」「生命を柱とする領域」の項目における正答率が低かった。実験や観察を多く行った内容の正答率が比較的高いが、複数の情報を活用して解答を求めることを苦手としている生徒が多い。そのため、複数の情報を活用して解答を求めることができるよう、情報活用能力の育成の視点を取り入れて授業改善に取り組む。

【質問調査の結果に関する分析・改善方法について】

「本校の強み」

・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に対して肯定的な回答が100%であった。
・「自分には、よいところがあると思いますか」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」「学校に行くのは楽しいと思いますか」といった質問に対して肯定的な割合が非常に多く、自己有用感が高い。

「本校の課題」

・「PC・タブレットを用いた学習活動」への肯定的な回答が全国平均と比較して少ないため、授業や学級の時間において活用方法について支援をする。
・教科によって「得意である」「好きである」への肯定的回答が全国平均と比較して少ないため、教科部会で生徒が興味・関心をもって学びを深められるような授業改善を行う。